

IMF・世界銀行グループ 年次総会の開催（二〇二二 年十月九日～十四日）

▼十月九日から十四日まで、国際通貨基金・世界銀行グループの年次総会（IMF世銀総会）が東京で開催されました。会場は、東京国際フォーラム、帝国ホテル、ホテルオークラでした。総会では、国際通貨基金（IMF）、世界銀行グループ（世銀）の主要会議に加え、G7（7カ国財務大臣・中央銀行総裁会議）、様々なセミナー、地域会合、二国間会談など、大小二〇〇以上の会議・イベントが開催されました。参加者は、世界中の財務省、中央銀行のトップを含む公式参加者だけで一万人を超え、過去最大規模となりました。また、公式参加者以外にも世界中の金融関係者が多数来訪し、世界経済や国際金融を巡る議論が、総会会場の内外で行われました。

▼IMF世銀総会とは、毎年秋に、IMFと世銀のそれぞれの最高意思決定機関である総務会が開催する会議です。総会は、三年に一度、ワシントンDC（IMFと世銀の本部所



総会全体会合（10月12日）の様

在地）以外で開催されます。今回の総会は、もともと、エジプトで開催される予定でした。しかし、エジプトは、二〇一一年初めに国内で「アラブの春」による政変が発生したため、IMF世銀に対して開催延期を申し出ました。これを受けて、同年六月に東京での開催が決まりました。なお、日本での開催は、一九六四年以来、二度目となります。

IMF世銀総会の準備には、通常、三年余りが必要ですが、東京での開催は前述のような事情で急に決まりました。このため、準備は一年四カ月で行う必要がありました。総会全体運営の準備において、日本銀行で

は、国際局にIMF世銀総会準備グループを設置し、財務省が統括した総会全体運営の準備をサポートしました。

▼また、日本銀行は、今回の総会で以下の六つのセミナー等を主催しました。

①日本銀行政策・業務紹介プログラム ム（十月九日、日本銀行本店）

▼総会に先立ち、財務省が在外公館の訪問・見学希望が多く寄せられたので、これを踏まえ、IMF世銀総会に参加する各国代表団を対象に特別プログラムを開催し、二〇カ国から三九名が参加しました。そのうち六カ国（エルサルバドル、ガーナ、グアテマラ、ブルネイ、モリシヤス、モルドバ）からは中央銀行総裁が、一カ国（トーゴ）からは計画・開発・国土整備担当大臣が参加しました。

プログラムでは、冒頭挨拶で、白川方明総裁が、前回の東京総会以来の日本銀行の政策と業務の変遷を振り返った後、日本銀行幹部が、「日本銀行の機能と業務の概要」、「金融政策」、「金融システムと考査」の各テ

ーマの講義を実施しました。その後、小グループに分かれた参加者が、「業務・史料展示室視察」または「貨幣博物館視察」に参加しました。

②中小企業金融ワークショップ（十月九日、東京国際フォーラム）

▼国際金融公社（世界銀行グループ）と共同で開催し、約九〇名が参加しました。

冒頭、日本銀行の早川英男理事が挨拶を行った後、二つのパネル討論を行いました。一つめのセッション



日本銀行政策・業務紹介プログラム参加者の皆さん

では、国際金融公社の幹部や開発途上国の金融機関のリーダーが、開発途上国における中小企業金融の経験を紹介しました。二つめのセッションでは、日本銀行、中小企業庁、地方銀行、大学の専門家が、戦後高度成長期を含めた日本の中小企業金融の経験を紹介しました。

③ 地域金融協力に関する日本銀行・CEMLA共催セミナー（十月十一日、東京国際フォーラム）

▼CEMLA（注1）と共同で開催し、約九〇名が参加しました。日本銀行の西村清彦副総裁を含むアジア、ラ



総会会場（東京国際フォーラム）の装飾

テンアメリカの中央銀行やIMFの幹部等五名が、パネル討議を行いました。

セミナーでは、アジア、ラテンアメリカそれぞれの地域金融協力の発展状況を紹介した後、現下のユーロ危機を踏まえた今後の地域金融協力のあり方などを議論しました。

（注1）Centro de Estudios Monetarios Latino Americanos：ラテンアメリカ・カリブ地域の中央銀行が組織する中央銀行業務に関する情報交換、研修等のための機関。

④ アジア経済セミナー “The Role of Asia in a Changing World”（十月十二日、東京国際フォーラム）

▼IMFと共同で開催し、約六〇〇名が参加しました。日本銀行の白川方明総裁、IMFのクリスティーヌ・ラガルド専務理事のほか、中国、インド、米国の学者、実務家計五名が、パネル討議を行いました。アジアの中期的な成長見通しと今後成長を維持するための課題、世界におけるアジアの役割を議論しました。

なお、セミナーの様相を収録した動画は、IMFのホームページで配信されています。



アジア経済セミナーの様相

http://www.imf.org/external/ann/2012/seminars/asia/

⑤ G30 国際銀行セミナー（十月十四日、ホテルオークラ）

▼G30（注2）では、例年、IMF世銀総会時に国際銀行セミナーを開催しています。今回は総会が東京で開催されたため、日本銀行が同セミナーをホストしました。

セミナーでは、「世界経済見通し」、「金融監督・ガバナンスをめぐる論点」、「世界経済のガバナンスを巡る論点」の三つのパネル討議を行いま

した。

（注2）Group of Thirty：民間非営利の国際団体で、民間部門および公的部門のトップならびに学識経験者がメンバー。

⑥ グローバル金融経済に関するハイレベル・セミナー

“Challenges of the Global Financial System: Risks and Governance under Evolving Globalization”（十月十四日、ホテルオークラ）

▼IMFと共同で開催し、主要国やアジアの中央銀行総裁、IMF幹部、学者等一二〇名が参加しました。IMFトップのクリスティーヌ・ラガルド専務理事が冒頭挨拶を、日本銀行の白川方明総裁が基調講演を行った後、二つのパネル討議を行いました。

一つめのセッションでは、金融のグローバル化が進む中で、今後留意すべき大きなリスクの所在を議論しました。また、二つめのセッションでは、金融経済のグローバル化が進むことで、対応が一段と難しくなる国際金融システムのガバナンスのあり方について議論しました。

「にちぎん体験2012」の開催

▼日本銀行本店では、十月二十九日（月）～十一月四日（日）の間、「にちぎん体験2012」を開催しました。本イベントでは企画展、市民講座、本店見学ツアーを実施し、多くの市民の方にご来場いただきました。また、同期間中、貨幣博物館の臨時開館なども行いました。

▼企画展「にちぎん誕生～一三〇年前を振り返って」では、開業一三〇周年にちなみ、特設展示室において、日本銀行設立の経緯や草創期の日本銀行を写真などでご紹介しました。また、日本銀行が行っているさまざま



お札に隠れている偽造防止技術を探す人で賑わう体験コーナー。一億円（模擬券）の重さ体験も実施。

まな業務についても、パネル展示や体験コーナーでご紹介しました。

▼市民講座では、金融市場、日銀本店の歴史、お金をめぐる話題などをテーマに、実務に携わる日本銀行職員が、自らの経験を踏まえて写真や

図なども使ってご説明しました。平日夜間の講座は、旧地下金庫見学をセットにし、通常はご案内していない金庫内の小部屋に入り、一千億円の模擬券などを間近にご覧いただくなど、いつもとは一味違った見学



本店内で開催された市民講座。

ツアーも体験していただきました。▼国指定の重要文化財である本店本館をご案内する本店見学ツアーでは、通常平日のみのツアーを休日に開催したほか、見学と日本銀行の仕事についての解説をセットにした「レクチャー付き見学ツアー」を開催しました。

▼日本銀行では、今後も皆さまに楽しんでいただけるような催事を実施していきたいと考えています。

なお、平日の日本銀行本店見学ツアーは、事前のお申し込みがあれば、随時ご参加いただけます。

*日本銀行見学ツアーの詳細は、日本銀行HPをご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/>

編集後記

■インタビューにご登場いただいた水戸岡さん、石田審議委員と対談していただいた羽佐間さん。ご専門の分野は異なりますが、「名人の技と心」を感じさせてくださるお二人でした。わが国のモノ作り、作品作りの強みを垣間見ることができました。（鮎瀬）

■東京からJR常磐線特急で1時間あまり。水戸の隣駅の勝田から鹿島灘に向かって、ひたひたな海浜鉄道湊線が延びている。昭和の懐かしい空気を色濃く残すのは、年代物の車両と簡素な駅舎だけではない。勝田を出て間もなく、湊線は見渡す限りの農地に分け入っていく。車窓を流れる緑を眺めていると、農村で過ごした日々が不意によみがえり、ひととき懐かしい思いに浸った。（TO）

■本号より担当することになりました新米編集員のYH、KAと申します。新聞やテレビの中で拝見するような方々の貴重なお話や原稿をとおり、日々勉強させていただいております。また、アンケートはがきのコメントから、温かく見守ってくださる読者の皆さまにも感謝いたします。まだまだ未熟ですが、誌面の充実をめざして頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（YH、KA）

*本誌は、全国の日本銀行本店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載しておりますのでご利用ください。（http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/）

*本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ（<http://www.boj.or.jp/>）をご覧ください。

にちぎん 2012年冬号
編集・発行人 鮎瀬典夫
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。